

君津市国土強靱化地域計画（令和3年度～令和8年度）【概要版】

- 国土強靱化とは、あらゆる大規模自然災害を見据えて「リスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）」を明らかにし、最悪の事態に至らないための事前に取り組むべき施策を考えることで、強靱な仕組みづくり、地域づくりを平時から持続的に展開していくもの。
- 本市は、令和元年に発生した一連の風水害により、市内各所で家屋等の損壊が生じたほか、長期停電、長期断水、通信障害が発生するなど、これまでに経験したことのない甚大な被害を受けた。この課題と教訓も踏まえ、事前に防災・減災に係る施策を進め、大規模自然災害が発生しても、災害により致命的な被害を負わない「強さ」と、速やかに回復する「しなやかさ」を備えた、真に災害に強いまちをつくるため、本市の国土強靱化に関する指針として本計画を策定する。

【基本計画編】

1. 基本目標

本市の強靱化を推進するための4つの基本目標を定めた。

【基本目標】

いかなる大規模自然災害が発生しようとも

- ① 人命の保護が最大限図られること
- ② 市及び地域社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持されること
- ③ 市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- ④ 迅速な復旧復興

2. 事前に備えるべき目標

4つの基本目標を基に事前に備えるべき目標として、次の8つを定めた。

【事前に備えるべき目標の設定】

① 直接死を最大限防ぐ	⑤ 経済活動を機能不全に陥らせない
② 迅速な救助・救急、医療活動等の体制整備及び、被災者等の健康・避難生活環境を確保する	⑥ ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる
③ 必要不可欠な行政機能は確保する	⑦ 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない
④ 必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する	⑧ 地域社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する

3. リスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）

国土強靱化基本計画及び県国土強靱化地域計画を参考に、本市の地域特性を踏まえ41のリスクシナリオを定めた。

【主なリスクシナリオ】

- ◆ 地震等に伴う住宅・建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や不特定多数が集まる施設の倒壊による多数の死傷者の発生
- ◆ 不特定多数が集まる施設における大規模火災による多数の死傷者の発生
- ◆ 迅速な救助・救急、医療活動等の体制整備及び、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する。
- ◆ 多数かつ長期にわたる孤立地域等の同時発生 など

4. 脆弱性の分析・評価

リスクシナリオを回避するため、現在実施している施策の脆弱性を分析・評価した。

【主な脆弱性評価結果】

- ◆ 避難路・避難場所の確保が必要
- ◆ 住宅・建築物等の耐震化が必要
- ◆ 交通インフラの確保が必要
- ◆ 地域防災力の強化が必要 など



令和元年房総半島台風における本市の被害状況

5. リスクシナリオへの対応方策

脆弱性の分析・評価結果に基づき、リスクシナリオを回避するための対応方策を取りまとめた。

【主な対応方策】

◆ 避難路・避難場所の確保 緊急時の避難路等の整備、避難場所の確保・整備 など	◆ 住宅・建築物等の耐震化 住宅・建築物の耐震化の促進、社会福祉施設等の防災・減災対策 など
◆ 交通インフラの確保 道路施設の老朽化対策、道路の法面对策、道路橋梁の耐震化 など	◆ 地域防災力の強化 自助、共助の促進による地域防災力の強化 など

【アクションプラン編】

6. 対応方策に関する事業

基本計画編で整理してきた、リスクシナリオを回避するための対応方策となる事業をまとめた。
アクションプラン編については毎年度見直しを行う。

【主な事業】

- 木造住宅耐震化促進事業
- 保育園環境整備事業
- 災害に強い森づくり事業
- 地区防災計画策定事業
- 非構造部材耐震化事業
- 衛生センター整備事業
- 各種ハザードマップの作成
- トンネル、橋梁の長寿命化対策 など